

日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報

JASC

第59号

- 1◎巻頭言
- 2◎第31回全国大会（宮城大会）のご案内
- 3◎研修委員会//学会誌作成委員会//広報委員会
- 4◎認定委員会//ガイダンスカウンセラー関連情報
- 5◎先輩に聞く
- 6◎【栃木県支部】一支部活動報告一
- 7◎第30回中央研修会の企画進捗状況//
災害被災者支援委員会報告
- 8◎会長コーナー//事務局より//編集後記

巻頭言

私と教育相談

2018年度から岐阜県支部理事長を拝命した古田です。ブロック内の申合せにより、同時に東海ブロックの代表となりました。

現在、日本学校教育相談学会は、この東海ブロックなど7つのブロックで構成されています。東海ブロック以外の6ブロックは「近畿・石川ブロック」のように、2つの地域を結んだ名称です。東海ブロックも最近までは「東海・岐阜ブロック」でした。

「近畿・石川ブロック」で、石川県は近畿地方ではありません。つまり、近畿と石川の間につけられている「・」は「+（プラス）」の意味ととらえられます。「北海道・東北ブロック」も「北関東・山梨ブロック」も同様に考えられます。だとすると、「東海・岐阜ブロック」の岐阜県は、東海地方ではないこととなります。しかし、このことについて異を唱えることが本文の主眼ではありません。

岐阜県民にとって、岐阜県が東海地方に属することは当然のことです。毎日の気象情報は「東海地方の天気」です。「サザエさん」は東海テレビで視聴します。にもかかわらず「東海・岐阜ブロック」という名称がつけられていたということは、岐阜県が東海地方ではないと見られてきたということでしょう。



東海ブロック代表 岐阜県支部理事長
古田 信宏

私は、ずいぶん幼い頃から、同じものでも人によって見方が違うことについて興味をもっていました。中高生の頃には、あえて多数派とは違う見方をする「あまのじゃく」を自負していました。このことは、私が大学で心理学を専攻することにつながっています。

40年ほど前に教職に就いてからは、目の前にいる子ども一人一人について、意識的に様々な側面から見るようになりました。そして、その中でその子にとって肯定的な見方を意図的に本人に伝えることにより、その子が自信をもつようになる経験をいくつも重ねてきました。

思い返してみると、私が教育相談にかかわり続けたのは、必然であったようです。

第31回全国大会(宮城大会)のご案内

～信頼と心の響き合いを大切に～
実行委員長 山下克郎

去る5月1日、30年余りにわたった平成の時代が終わり、新しい「令和」の時代が幕を開けました。

本学会の第1回研究大会が行われたのは平成2年(平成元年度)2月11日のことです。以来、平成の時代と重なるように、昨年度の東京大会まで、これまで30回の研究大会が開催されて来ました。



そして、奇しくも令和に改元されたこの記念すべき年に、私たち宮城県支部が令和時代最初の研究大会となる第31回研究大会宮城大会を主管させていただくことになりました。支部会員一同、改めて身の引き締まる思いを感じているところです。

既にご案内を差し上げておりますとおり、第31回研究大会宮城大会は「杜の都」仙台で開催されます。会場は仙台駅東口を出てすぐの東北福祉大学仙台駅東口キャンパスになります。また、会員懇親会を予定しておりますTKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台東口も会場から歩いてすぐの立地で、三方ガラス張りの会場からは、仙台の美しい夜景が一望できます。当日はささやかながら、宮城名産の美味しい食材や銘酒をご用意して皆様をおもてなしさせていただこうと、現在準備を進めているところです。また、懇親会では毎年5月に仙台市で行われる「青葉祭り」で踊られております「すずめ踊り」もアトラクションとしてご覧いただく予定です。仙台での一夜が会員の皆様にとって思い出深く、また相互の懇親を深めるよい機会となりますよう、準備に取り組んで参りますので、研究大会はもちろんですが、懇親会にもどうぞ奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

さて、今大会のテーマは「信頼と心の響き合いを大切にした学校教育相談 ～東日本大震災を越えて私たちがめざすもの～」です。

そこで、今大会では、宮城県支部主催の大会企画

シンポジウム「東日本大震災を越えて私たちがめざす学校教育相談とは」を企画いたしました。本シンポジウムでは、震災以来8年間の学校教育相談活動を踏まえ、「普段、どのような教育相談活動を展開することが、学校や子供たちにとって、このような大きな災害をも乗り越える力となるのか」について、岩手、福島、宮城の被災3県からの話題提供を基に、指定討論は、宮城県内最大の被災地である石巻市で、現在石巻市教育委員会の行っている「石巻市子どもの未来づくり事業」をとおして復興にご協力をいただいている、本学会会長の栗原慎二先生(広島大学)にお願いし、会場の皆様とともに考えていきたいと思っております。

また、大会2日目には同じく本支部主催のラウンドテーブル「被災地の学校を支える一学会の被災地支援活動の在り方を考える一」も企画いたしました。近年、東日本大震災後も、3年前の熊本地震から昨年の北海道胆振東部地震まで、大きな災害が続いています。大規模な災害が発生したとき、被災地の学校を支えるために、本学会としてどのような支援活動を行えばよいのか、また、どのような支援活動が行えるのか、について、実際に被災地の学校を支援する活動を行っている災害被災者支援委員会、そして被災地の教員の意識調査を行っている調査研究委員会に話題提供をお願いし、参加者全員で話し合っていきたいと考えております。

更に、今大会ではオプションツアーとして、震災遺構に指定された旧石巻市立大川小学校校舎の視察もご用意させていただきました。説明は本支部会員が務めさせていただく予定です。

初めての研究大会主管ということもあり、手探りで準備を進める毎日ですが、支部会員一同、心を込めて準備に当たりたいと考えております。8月には仙台の地で皆様にお会いできますことを楽しみにいたしております。

(文責：宮城大会実行委員長 山下 克郎)

研修委員会

日本学校教育相談学会研究大会（宮城大会）の前日の8月9日（金）、東北福祉大学仙台駅東口キャンパスで研修委員会主管の第20回夏季ワークショップを行います。詳細は同封の夏季ワークショップ案内に記載されていますが、講師の先生による講座案内などをご参照頂いてお申し込み下さい。今年は研究大会・夏季ワークショップ共に申込期間が7月5日までと例年より早くなっています。4月4日より申し込みが始まっておりますので、お早めにお申し込み下さい。6月下旬には学会ホームページに、ワークショップの申込状況を掲載致しますので、ご参考にして下さい。この2年ほどは半数を超える講座が定員一杯となり、第二希望の講座に移って頂く状況が発生しています。

また、8月11日（日）には、研修委員会主管で第8回ラウンドテーブルを行います。今年は「支援を必要とする保護者との関わりを考える」というテーマで、宮城県支部会員より話題提供して頂き、例年通り、小中高のテーブルで情報交換しながら現場での有効な保護者支援を考えていきたいと思っております。キーワードとして、「困った保護者」「困っている保護者」「支援と連携」を挙げています。学会の参加型学習として定着してきたラウンドテーブルに、是非ご参集下さい。

（文責：研修委員長 渡辺 正雄）

学会誌作成委員会

会員の皆様におかれましては、学会誌作成委員会の活動にご理解とご協力を賜りまして有り難うございます。

本学会は会則にもありますように「実践」を重視しております。学会誌作成委員会としましても、この方針を尊重し、できるだけ学会誌に実践に関する論文を掲載していきたいと考えております。しかしながら、昨今の投稿状況をみますと、実践よりも研究の論文が多いのが実情で、残念に思います。

さて、現在、投稿論文の分類が、「研究論文」のほかに「実践論文」「実践報告」「資料」と、実践重視となっているのはご存じでしょうか？多くの先生方が「実践」をされていらっしゃる。そのご実践をまとめていただき、是非ご投稿いただきたいと考えております。論文にするのは難しいとお考えかもし

れませんが、「実践報告」は、実践の内容を重視しますので、文献研究や考察が少なくとも結構です。どうぞお気軽にご投稿ください。

研修に関してですが、夏の大会と1月の中央研修会にて、論文作成に関するワークショップを今年度も実施しますので、是非ご参加いただきたいと思っております。

支部理事長様へお願い

各支部で投稿者1名の推薦を是非お願いします（掲載の保証があるわけではなく、一般の投稿と同様の審査をさせていただきます。）

（文責：学会誌作成委員長 長坂 正文）

広報委員会

本学会のホームページにはすぐにも役立つテキストが添付されています。多様な相談活動に生かせる様に工夫されており、「ふと原点に戻りたくなった時に」このページを開くと、ヒントが見つかることも多くあります。その項目のいくつかを掲載します。

是非ご活用ください。

テキスト番号とその内容

05 子どもの理解と指導／06 リラクゼーション／07 面接の基礎技法／10 障害のある子どもの理解と支援／11 保護者との連携／16 認知・行動カウンセリング／17 精神分析的カウンセリング／20 交流分析／26 ソーシャルスキルトレーニングの理論と実際／27 アサーショントレーニングの理論と実際／28 ピア・サポートの基礎／30 非行の理解と対応／31 いじめの理解と対応／32 不登校の理解と対応／33 学級担任が行う学校教育相談／35 危機管理と危機対応／37 子どもの発達と発達課題／42 グループアプローチ／44 特別支援教育における学校教育相談の役割と意義／46 豊かな授業を創造する教育相談的アプローチ／48 リソースの活用と連携／53 発達障害アセスメント／57 遊戯療法／58 箱庭療法／62 特別支援教育と個別対応

ホームページ » 各種資料 » 研修テキスト

（文責：広報委員長 佐藤敏彦）

認定委員会

認定委員会では、平成31年2月3日(日)に第2回「学校カウンセラースーパーバイザー研究会」を神戸産業振興センター(神戸)で開催しました。午前は和歌山大学教授米澤好史先生の講演「発達障害と愛着障害の理解と支援」で、午後は米澤好史先生・栗原慎二先生の公開スーパービジョン、最後に栗原会長の講話でまとめていただきました。参加者の感想を報告いたします。

○講演会について：

愛着障害と発達障害について詳しく教えていただきました。違いを見極め、一人一人の子どもに合わせた対応をしていく必要があると感じました。学校で一番対応の仕方に悩んでいる問題について分かりやすくお話しいただきました。

○公開スーパービジョンについて：

一つの事例について別の枠組み・理論でのSVで、興味深い試みでした。自分の理論・枠・方法を確立していきたいと思いました。

*平成30年度学校カウンセラーの資格取得

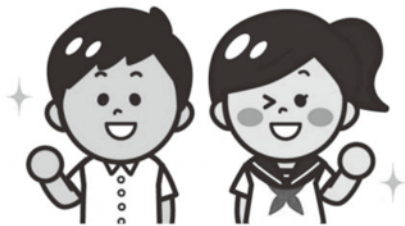
新規取得者：24名 資格更新者：118名

学校カウンセラーを基礎資格としたガイダンスカウンセラーの取得者：24名

*2019年度研究会のお知らせ

第6回「学校カウンセラー・ガイダンスカウンセラー実践研究会」は講師に立教大学教授の春日井敏之先生をお迎えして2019年12月15日(日)にアルカディア市ヶ谷(東京)で開催する予定です。また、第3回「学校カウンセラースーパーバイザー研究会」は講師に米澤好史先生をお迎えして2020年2月2日(日)にアルカディア市ヶ谷(東京)で開催予定です。

(文責 認定委員長 青木美穂子)



ガイダンスカウンセラー関連情報

1. 2月18日文科省児童生徒課面談

(10:30~11:15)

馳浩議員事務所において、新任の大濱課長、栗野課長補佐課長との面談を行い、担当者に具体的な対応を進める姿勢を形成すること、本年4月1日に前向きな「スクールカウンセラー等活用事業実施要領」の改正が発表されることを目指しました。

(出席者：石隈理事長、新井理事、中村理事、加勇田理事、東事務局長)

日本スクールカウンセリング推進協議会より各理事から、これまでの文科省担当課との歩みを説明し、SC実施要領の改正、相談指導教諭の設置等に関して要望を行いました。この会談を受けて、当協議会としては、平成31年4月に前進した「スクールカウンセラー等活用事業実施要領」の改訂が行われることを期待して注視していましたが、本年度はまだSC実施要領改正は発表されておられません。

2. 4月16日文科省児童生徒課面談

(13:30~14:20)

児童生徒課の人事異動があり、文科省に出向いて新任の廣石児童生徒課長補佐との面談を行いました。日本スクールカウンセリング推進協議会とガイダンスカウンセラーについて及びこれまでのいきさつ等を説明し、今後のスクールカウンセリングのあり方について話し合いました。

(出席者：中村理事、加勇田理事、東事務局長)

*日本スクールカウンセリング推進協議会今後の予定について詳しくは推進協議会のHP(<http://jsca.guide/>)を参照してください。

(文責：一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会理事 日本学校教育相談学会名誉会員・ガイダンスカウンセラー 加勇田修士)

先輩に聞く

「私と教育相談」

名誉会員

埼玉県支部理事長 中村孝太郎

昭和 59 年 4 月埼玉県立教育センターは埼玉県立南教育センターと改称し、北教育センターも同時期に設置された。当時の南センターは特殊教育部門と生徒指導教育相談部門とがあり、私は南教育センターの生徒指導教育相談部長としてカウンセリングを中心とした教育相談の推進に努力した。不登校・性格の課題・親子関係等の取り扱う教育相談の活躍が期待されていたのである。



私は埼玉県からの派遣教員として東京大学にある上出研究室で 1 カ月間研修を受ける機会に恵まれた。この研修期間に、私は当時東大教授で日本小児精神神経学会会長の上出弘之(かみで ひろゆき)先生に教えを乞うことが出来た。上出先生は大変人柄の良い先生で、何かと声をかけてくれ、親しく接してくれた。一ヶ月の研修期間を過ぎて、その後何度も先生の研究室を訪ねては教えを頂いた。そのうちに講演会に同伴させていただき、神奈川県や調布、北海道など各地の講演会に「まるでカバン持ち」の様に先生の後を追いかけていた。時には予約もなく研究室を訪れることも有ったが、いつも気さくに、優しく丁寧に接してくれた素晴らしい先生だった。

研究室には自閉症の児童が 7~8 人来ており、幼稚園や保育園の専門的な知識を持った数名の助手もいた。ある時、助手の方と一緒に自閉症の児童 10 人の面倒を見て欲しいとの依頼があり、東大を出て不忍池をぐるりと散策したことがある。その時は、みんなで手をつなぎゆっくりと散策をしたのだが、後で考えると冷や汗が出てきた。今までに自閉症の児童との関わりが無かった私はその関わりの難しさを

知らなかったのである。言葉や意思の疎通が難しい子どもたちであり、どんな事が起きるか予想もできなかった。その時は、助手の方たちに支援してもらい、事なきを得たが、初めての経験で多くのことを学ばせて頂いた。

その後、幾度も上出先生の研究室に通い続けて、6 カ月ほど経過すると、子どもたちも私になつくようになった。私をニックネームで呼んだり、手を握ったりしてきた。子どもたちとの人間関係が深まり、上出先生や助手の方々からも細やかなアドバイスも頂くことができた。更に東大構内にある小さな池の周囲を子どもたちと散歩することも多くなって来た。一週間に 2~3 回も上出研究室にアポイント無しで訪ねて指導を受けたり、子どもたちや親たちとの交流も出来るようになった。そのおかげで上出弘之先生ご本人を、埼玉県立南教育センターに呼んで講演をして頂いたりすることもできた。超一流の小児精神科医である。おいそれと地方の教育委員会に呼べる先生では無かったが「中村君のお願いじゃあ、行かざるをえないなあ。」と言って、毎年南センターに来て講演をしてくれた。

自閉症の子どもたちとの人間関係が深まるにつれて、上野の不忍池の周囲を一緒に散歩が出来るようになり、最初は私の手をぎゅっと握っていたが、だんだんと私の後について歩いてくるようになった。この子どもたちとの意思疎通が少しずつできるようになった。この散歩に親たちは連れて行かない。親が一緒だと親にしがみついてしまい、引率者の言うことを聞かなくなってしまう。このような事態を避けるため親たちは別室で過ごしてもらい、「親たちのミーティング」に参加してもらった。そして、散歩から帰って来て、児童が出来たことを沢山伝えた。「〇〇さんは、応答が上手でしたよ。」等の感情レベルの変化をできるだけ丁寧に報告すると、親たちもその報告を聞いて大変喜んでくれた。私も涙ぐむことが何度もあった。この上出研究室での経験が、私の教育相談活動の原点となっている。

(文責: 広報委員 佐藤敏彦)

【栃木県支部】一支部活動報告一

2021年栃木大会に向け第1回実行委員会を7月に予定している。会員減に歯止めをかけるきっかけになることを期待して支部会員の力を結集したい。



- 1 第29回総会・カウンセリング特講Ⅰ
・カウンセリング特別講座Ⅰ
平成30年6月2日(土) 13:00～
会場 栃木県教育会館大ホール
講師 良(うしとら) 香織(宇大准教授)
講演「人権として“LGBT”を考える」
・第29回総会
平成29年度事業報告、決算・会計監査報告
平成30年度事業計画、予算、役員の選任
- 2 第6回教育相談カフェ「私と教育相談」
日時 平成30年7月14日(土)
会場 とちぎ青少年センター
講師 小川正人(理事)
- 3 学校教育相談基礎講座
日時 平成30年7月28(土)、29(日)
会場 とちぎ青少年センター
講師 支部スーパーバイザー
内容
①「問題行動の理解と対応」馬場友治
②「学校教育相談の原点を考える」毎澤典子
③「不登校への理解と対応」伊澤 裕
④「学級経営の押さえどころ」築瀬のり子
- 4 日本学校教育相談学会30回総会・研究大会
日時 平成30年8月3日～5日
会場 昭和女子大学
内容 総会・研究大会
- 5 第34回支部研究発表会
日時 平成30年10月6日(土)
会場 栃木県教育会館 小会議室
発表者 2名 助言者 伊澤 裕(理事)
- 6 第7回教育相談カフェ「ラウンドテーブル」
日時 平成30年10月20日(土)
会場 とちぎ青少年センター
講師 高松千恵子(事務局長)
- 7 第35回支部研究発表会
日時 平成30年11月25日(日)
会場 栃木県教育会館 小会議室
発表者 2名 助言者 築瀬のり子(理事)
- 8 カウンセリング特別講座Ⅱ
日時 平成30年12月1日(土)
会場 栃木県教育会館大ホール
講師 佐藤節子(山形大大学院教授)
講演「解決志向で考えようリソース探しから始める希望のカウンセリング」
- 9 日本学校教育相談学会・第29回中央研修会
日時 平成31年1月12日(土)～13日(日)
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
内容 プレ講座、シンポジウム、コース別講座
- 10 北関東・山梨ブロック研修会
日時 平成31年2月2日(土)
会場 とちぎ青少年センター
講師 丸山 隆(TCA協会理事長)
講演「ロールプレイで考えるエリクソンの漸成発達理論」
- 11 精神医学特別講座
日時 平成31年2月16日(土)
会場 栃木県教育会館大ホール
講師 門田行史(国際医療福祉大病院教授)
講演「がまん脳は褒め育てる
～子育て・発達支援～」
- 12 ニュースレター NO.29、NO.30 発行
- 13 支部役員
理事長： 柴 一彌
理 事： 池田清恵、伊澤 裕、小川正人、川俣幸雄、佐藤幹夫、馬場友治、原田浩司、平峰孝二、藤浪直紀、松本直美、築瀬のり子
監 事： 伊澤 孝、原沢大生未
事務局： 高松千恵子
(文責・栃木県支部理事長 柴 一彌)



第30回中央研修会の企画進捗情報

第30回中央研修会は、令和2年1月11日(土)～12日(日)に国立オリンピック記念青少年センターで予定しています。実施要項は9月に学会ホームページに掲載致しますが、会員の皆様への会報による案内は10月20日以降になります。今年も初日にプレ講座とシンポジウム、教育相談カフェ(交流懇親会)、2日目にコース別講座7コースを予定しています。

現在、研修企画は検討中です。企画から決定までは、研修委員会の経年企画案をベースに、研修会参加者の研修希望アンケート、学会本部や他の専門委員会からの研修要請、各支部からの研修希望などを勘案しながら行っています。参考のために来年度の中央研修会に向けて候補に上っている研修企画案を掲載致します。研修テーマや講師などについては、研修アンケートや各支部を通じてお寄せ下さい。

【1月11日(土)】「プレ講座」候補

「教育相談コーディネーター入門～その理論と実際～」
「スクールソーシャルワーカーの仕事と教育相談の連携」

※共にチーム学校に向けての研修課題となります。

「デートDV予防プログラム」

※デートDVは中高生にも増えている問題です。
「実行機能支援の実際を学ぶ」「児童相談所の現状を知る」

【1月11日(土)】「シンポジウム」候補

【テーマ】「教育実践と教育相談はどのように寄り添えるか」

※教育相談は教育活動の根幹ですが、何を、なぜ、どうするかを問います。

【1月11日(土)】「教育相談カフェ」(交流懇親会)

※研修を終えて講師の先生と参加者が情報交換し、直に交流する機会です。

【1月12日(日)】「コース別講座」(7コースの予定)候補

「SNSカウンセリング入門」

※SNSカウンセリングは、既に有力な相談方法の一つにもなっています。

「非認知能力の習得をどう育成するか」

※認知の課題に偏りがちな学校教育への大事な提言になります。

「不登校支援の事例研究～しづりから再登校まで～」

※不登校問題は教育相談の主要課題の一つです。

「被害者からの立ち直り支援」

※虐待の理解から具体的な支援の方法を学びます。

「自傷とその周辺へのレスキューガイド」「GRIPに学ぶ自殺予防教育」

※自傷や自殺への具体的支援、ゲートキーパーとしてのピアサポーター育成など。

「発達障害の二次障害へのケアとサポート」

「教育相談に活かす児童心理学・青年心理学」

「コミュニティ心理学の応用と実践」「ダイバーシティ入門」

「学校教育相談論文の書き方講座」

※学会活動の質的向上のための継続的企画です。

(文責：研修委員長・渡辺正雄)

災害被災者支援委員会報告

平成31年が、「令和元年」としてスタートを切りました。本委員会は、数年前に「災害被災者支援委員会」と名称を変え、震災のみならず、幅広く自然災害にも対応できるように組織改編を行ったところ

です。本部の支援委員会としては、今年度は、今まで関わってきた宮城県石巻市や近隣市の小中学校への、あるいはブロック研修等への支援活動を継続すると共に、8月に行われる第31回総会・研究大会(宮城大会)を、大会実行委員会と連携して成功させたいと考えています。

今年度の最初の取り組みは、石巻市立河北中学校の教員研修です。「お互いを知り、認め合い、集団としての絆を強める」ことをねらいとして、今年度も始まりました。当初「学校カウンセラー」の資格を持つ私たち支援委員がリードしてきた研修ですが、少しずつ先生方に参入していただき、グループライダーを担当していただいたり、担任する学級の児童・生徒さんたちに実際に実施してもらえるようにしたりしてきました。

集団としての絆を強めたり深めたりする手法もエンカウターも含めていろいろあります。本年度は、先生方の実践のリフレクション(振り返り)の場を持ちながら、学校、学級、地域に合わせた進め方を検討できたらと思います。

(文責：災害被災者支援委員長 砥柄敬三)

会長コーナー

平成 31 年 4 月 1 日、一般社団法人日本学校教育相談学会が設立されました。

本学会は平成元年に設立され、平成の終わりとともに任意団体としての歩みを終えたこととなります。そして 4 月 1 日からは、「法人である本部と各都道府県・指定都市に置かれている支部により構成」される一般社団法人としての歩みを始めました。今後は 1 年後を目途に、公益法人としての認定を受けるべく、歩みを進めることとなります。

私が会長に就任した際、1) 研究団体としての成長、2) 研修団体としての成長、3) 実践団体としての成長、4) 関係機関・関係学会との連携を通じて、「学校教育相談の普及と充実」を図るという目標を掲げました。今回の法人化は、このすべてに関わる大きな変化であり、とりわけ教員免許更新講習を提供する団体となる上で、また、さまざまな連携を進める上で必須のプロセスです。今後は法人化を基盤に、関連団体との連携協力をさらに強化し、研修を充実させることで実力の向上を図り、その実力を基盤に、1 と 3 の研究と実践をすすめ、「学校教育相談の普及と充実」をより実質的なものにしていきたいと考えています。

任意団体としての歩みは終わりましたが、「会員相互の資質の向上」と「学校教育相談の普及・充実を図る」という設立当初の目的は何ら変わることはありません。法人化は、より効果的にその目的を達成するための道程です。今後は法人として、この目的の達成に向けて歩を進めていきたいと考えています。

(文責：会長 栗原 慎二)



事務局より

○総会で承認された学会本部の法人設立を 4 月 1 日にしました。一般社団法人日本学校教育相談学会となりました。今後は、公益法人化に向けて、作業を進めていきます。

○2018 年度の会計監査が 4 月 21 日に実施されました。独立採算であった認定委員会と研修委員会の会計は、法人化に伴い、2019 年度より、他の委員会と同じように本部予算に組み込まれます。

○アルバイト・事務職員を各 1 名ずつ公募し採用しました。各委員会の会計処理については、専門家と相談しながら適正化を進めていきます。

○ブロック研修会と学校教育相談基礎講座の担当支部にアンケートを実施しました。

○2019 年度の役員候補の決定をし、信任投票を 2 月に実施しました。

(文責：事務局長 梅川 康治)

編集後記

新年号「令和」時代が幕を開けました。外務省は、平成に代わる新元号「令和」について外国政府に英語で説明する際、「Beautiful Harmony=美しい調和」という趣旨だと伝えるよう指示しています。日本学校教育相談学会も美しい調和を社会にもたらす使命を担っていることを、更に自覚しあいたいです。

(文責：広報委員長 佐藤 敏彦)

日本学校教育相談学会会報

第 59 号

令和元年 6 月 20 日発行

発行 一般社団法人 日本学校教育相談学会

会長 栗原 慎二

編集 日本学校教育相談学会広報委員会

委員長 佐藤 敏彦

事務局 〒179-0073

東京都練馬区田柄 3-11-28

日本学校教育相談学会事務局

電話/FAX 03-3926-7386

HP <http://www.jascg.info/>